

事務事業評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	泉南市献血推進協議会補助事業				②事業番号	4202	
③事業類型	7. 負担金・補助金事業			④開始年度	昭和 49 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	○ 条例	規則	○ 要綱	計画等	その他	法令等の名称: 安全な血液製剤の安全供給の確保等に関する法律
⑦実施手法	直営	全部委託	一部委託	○ 補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	4	項	1	目	1	細目 3
⑨担当部名	健康福祉部			⑩担当課名	保健推進課		会計 一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 泉南市献血推進協議会	① 泉南市献血推進協議会 委員数	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
泉南市献血推進協議会を財政的に補助し、協議会活動と連携し献血や血液製剤に関する教育及び啓発をするとともに献血推進組織の育成等を行う。 ・献血に関する普及啓発活動 広報紙、街頭での献血PR ・市役所等での献血	① 会議開催数	回
	② 献血車による献血回数	回
	③ 街頭啓発等	回
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
献血について正しい知識を習得してもらい、献血に協力してもらうことにより安定的に血液を確保する。	① 献血者数	人
	計算式	
	② 啓発人数	人
	計算式	
	③	
	計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
安定的に血液製剤を確保することにより、患者さんの治療に使うことができ、地域医療の充実に貢献できる	政策(章)	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節)	2 すべての市民が生涯にわたって健康な生活を送れるまちをめざします
	施策中	1 医療環境の充実
	施策小	1 地域医療体制の充実

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	
対象指標①	泉南市献血推進協議会 委員数	人	17	17	17	17	17	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	会議開催数	回	1	1	1	1	1	
活動指標②	献血車による献血回数	回	48	54	58	58	58	平成30年度-令和元年度にかけて献血者数が減少したのは、イオンりんくう泉南の店舗内で献血が中止となったため。
活動指標③	街頭啓発等	回	53	57	63	63	63	
成果指標①	献血者数	人	2,259	2,295	2,120	2,120	2,120	
成果指標②	啓発人数	人	5,627	5,649	5,689	5,689	5,689	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.10	0.10	0.09	0.09	0.09	
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	803	811	694	694	694	事業費などの推移における特殊要因などの説明
	直接事業費	千円	80	79	80	79	79	
	総事業費	千円	883	890	774	773	773	
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	—
	府支出金	千円	80	80	80	80	80	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	0	
	その他特定財源	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	803	810	694	693	693	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	「安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律」(昭和31年)により、献血推進計画に基づいて医療に必要な血液を確保する必要があった。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	年間を通して安定した献血者の確保が必要である。大震災等の災害時における血液が確保されるよう、関係機関との連絡調整が必要である。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	献血された血液は、医療機関に送られ、がん・血液や造血器の病気、各種感染症、交通事故などの患者さんの治療に使われ、地域医療に貢献している。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	献血について住民の理解を深めるとともに、献血事業者による献血の受け入れが円滑にいくことは「安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律」上の市の責務である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	血液を確保することは、人間の命に関わる事業であり、この協議会に対する補助事業は、献血を推進するうえで、社会環境に合っている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	「安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律」上の市の責務であり、休止等の措置を実施した場合は、血液製剤の不足が考えられ、手術などに支障をきたす。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価 **A**

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	若年層の献血離れがあるなか、献血実施回数を増やすなどの工夫を行うことにより献血者数の増加を確保できている。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	より献血量を確保する必要がある。献血基準の改正の情報を伝え、若年層、特に10代層への啓発を行う。献血を多くしてもらえる場所を選び、献血者の理解と協力を得ていけるよう啓発活動を行う。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	他部署のイベント(ABC祭り、成人式等)で普及啓発活動を実施するなどの連携を行っているが、今後も他部署との連携を拡充する。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価 **A**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	人件費以外の事業費は定額であり、これ以上の削減は困難である。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	補助事業であり、受益者負担の考えは適さない。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	今後も泉南市献血推進協議会への支援が必要であり、安定的に献血者確保が必要である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

A	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 ↓ (年まで) エ. 休止 ↓ (年から) オ. 廃止 ↓ (年から)	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—